2021年3月期
第3四半期決算の概要

2021年2月9日

みずほリース株式会社

MIZUHO

2020年度第3四半期の総括

■ 厳しい事業環境のなか、お客様のニーズを的確に捉えることで営業資産残高を積み上げ、差引利益は前年同期比で増加

■ 加えて、信用コストが低位で推移したことや、営業外収益で持分法による投資利益が増加、特別利益で投資有価証券売却益を計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は180億円を計上し、前年度通期実績（175億円）を上回る

（億円）	18年度 3Q	19年度 3Q	20年度 3Q	増減額	増減率
売上高	2,666	3,805	3,501	▲304	▲8%
差引利益	384	426	430	+4	+1%
（信用コスト）	(▲11)	(▲6)	(7)	(+13)	-
営業利益	180	179	178	▲1	▲1%
経常利益	195	182	219	+37	+20%
親会社株主に帰属する四半期純利益	131	125	180	+55	+44%

業績予想の修正

- 当初計画は、新型コロナウイルスの影響により、一部の業種について、景気悪化に伴う設備投資計画の先送りや信用コストの増加等の影響を見込み、策定
- 営業資産残高の着実な積み上げに加え、信用コストが低水準であったこと等から足元の業績は堅調に推移しており、コロナウイルス感染拡大の影響の検証等も踏まえ、下記のとおり通期予想の上方修正を実施

（億円）	2020年度 3Q実績	2020年度 予想 当初公表①	3Q 進捗率	2020年度 予想 上方修正後②	増減額 ②-①	3Q 進捗率	2019年度 実績
売上高	3,501	5,000	70%	5,000	-	70%	5,392
営業利益	178	208	86%	235	+27	76%	263
経常利益	219	236	93%	255	+19	86%	267
親会社株主に帰属する当期純利益	180	180	100%	200	+20	90%	175
年間配当金		84円		84円	-		(※) 82円
中間配当金		（実績）40円		（実績）40円	-		(※) 40円
期末配当金		44円		44円	-		42円
配当性向		22.6%		20.3%	-		22.7%

（※）記念配当2円を含む

*① 2020年5月14日公表

*② 2021年2月9日公表

MIZUHO

決算概要

（億円）	18年度 3Q	19年度 3Q	20年度 3Q	増減額	増減率
売上高	2,666	3,805	3,501	▲304	▲8%
差引利益	384	426	430	+4	+1%
資金原価	62	73	61	▲12	▲17%
売上総利益	321	352	369	+17	+5%
信用コスト	▲11	▲6	7	+13	-
営業利益	180	179	178	▲1	▲1%
営業外収益	22	11	57	+46	-
経常利益	195	182	219	+37	+20%
親会社株主に帰属する四半期純利益	131	125	180	+55	+44%

差引利益率	2.81%	2.74%	2.60%	▲0.14pt	-

（注）差引利益率 = 差引利益（年換算値） ÷ 営業資産（期首期末平均残高）

（億円）	19/3末	20/3末	20/12末	増減額	増減率
営業資産残高	20,214	20,903	23,126	+2,223	+11%
純資産	1,822	1,958	2,055	+97	+5%
自己資本比率	8.0%	7.9%	7.6%	▲0.3pt	-

不動産ブリッジ案件の満了に伴う売却売上が減少

厳しい事業環境下、営業資産残高を着実に積み上げ、リース収益が増加

外貨調達金利の低下により、資金原価は減少

前年同期比では増加するも、信用コストは低水準

持分法による投資利益が増加

特別利益で投資有価証券売却益を計上

フィー収益の減少を主因に差引利益率は低下

事業の状況

（億円）	18年度 3Q	19年度 3Q	20年度 3Q	増減額	増減率
契約実行高	11,507	9,849	10,196	+347	+4%
リース・割賦	3,892	5,182	4,772	▲410	▲8%
ファイナンス	7,589	4,666	5,423	+757	+16%
その他	26	-	-	-	-

- 契約実行高は前年同期比4％増加
  - リースは新型コロナウイルスの影響を受け総じて減少するも、情報通信機器等は増加
  - ファイナンスは商流ファイナンスが増加

（億円）	19/3末	20/3末	20/12末	増減額	増減率
営業資産残高	20,214	20,903	23,126	+2,223	+11%
リース・割賦	13,061	14,674	16,056	+1,382	+9%
ファイナンス	7,090	6,229	7,070	+841	+14%
その他	63	-	-	-	-

- 営業資産残高は前年度末比11％増加
  - リースは情報通信機器や不動産を中心に積み上げ
  - ファイナンスの増加は商流ファイナンスが主

契約実行高／リース・割賦セグメント

機種別契約実行高

（億円）	18年度 3Q	19年度 3Q	20年度 3Q	増減額	増減率
産業・工作機械	806	1,110	1,015	▲95	▲9%
情報通信機器	660	1,107	1,420	+313	+28%
輸送用機器	459	635	289	▲346	▲55%
土木建設機械	319	286	265	▲21	▲7%
医療機器	159	126	83	▲43	▲34%
商業・サービス業用機器	276	219	176	▲43	▲19%
事務用機器	61	77	32	▲45	▲59%
その他	1,151	1,622	1,493	▲129	▲8%
うち不動産	921	1,340	1,168	▲172	▲13%
うち不動産以外	230	281	325	+44	+16%
合計	3,892	5,182	4,772	▲410	▲8%

- 情報通信機器：通信事業者をはじめとする設備投資ニーズを捕捉
- 輸送用機器：航空機オペレーティングリースの取り組み抑制が主因
- 医療機器：中国での取り組みを抑制
- うち不動産：引き続きブリッジ案件が中心
- うち不動産以外：リースバックを活用したお客様の事業サポートや省エネ案件が増加

契約実行高／ファイナンスセグメント

契約実行高

（億円）	18年度 3Q	19年度 3Q	20年度 3Q	増減額	増減率
商流ファイナンス・融資等	6,461	3,897	4,737	+840	+22%
航空機	228	180	30	▲150	▲83%
不動産	753	431	498	+67	+16%
船舶	148	159	159	+0	+0%
合計	7,589	4,666	5,423	+757	+16%

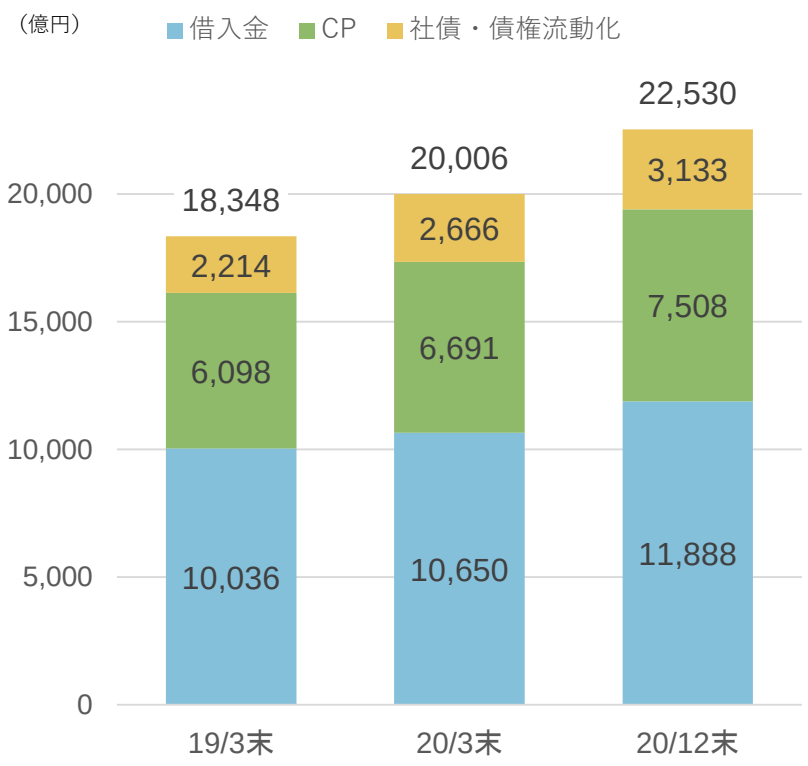
短期の商流ファイナンスが増加

資金調達等の状況

■ 調達の安定性確保とコスト抑制のため、社債やCP等直接調達を積極的に活用

■ 外貨調達金利の低下により、資金原価は減少し、資金原価率も低下

有利子負債残高



資金原価（率）

（億円）	18年度 3Q	19年度 3Q	20年度 3Q
資金原価	62	73	61
資金原価率	0.46%	0.47%	0.37%

（注）資金原価率 = 資金原価（年換算値） ÷ 営業資産（期首期末平均残高）

外部格付の状況

格付機関	格付	
R&I	長期	A
	短期	a-1
JCR	長期	A+
	短期	-

お問い合わせ先

みずほリース株式会社
経営企画部
コーポレートコミュニケーション室
TEL:03-5253-6540
FAX:03-5253-6539

本資料には現時点で入手している情報に基づき当社が判断した将来の予測数値が含まれておりますが、一定のリスクや不確実性が含まれており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
将来に関する事項については様々な要因により変動することがございますので、ご留意下さい。

MIZUHO